

羽村市史編さんだより

平成30年4月
第13号

伸びゆくはむら

特集

明治時代の羽村の学校



- ① News
- ③ 部会の手帖
- ⑤ 市史編さんの足あと
- ⑤ コラム「ちっとなべえ」



2

第9回 羽村市史編さん委員会を開催

2月13日（火）に第9回羽村市史編さん委員会が開催されました。会議では、平成29年度の事業実績と平成30年度の事業計画について報告があり、着実に進めていくよう、各委員から意見が出されました。

『羽村市史 資料編 中世』『羽村市史 資料編 近現代図録』に関しては、校正作業を進めながら印刷工程に入っていることが報告されました。



第3回 羽村市史関連講座を開催しました！



3月24日（土）、生涯学習センターゆとろぎ講座室1で、第3回羽村市史関連講座「地図と写真に見る羽村の大正・昭和・平成」を開催しました。『羽村市史 資料編 近現代図録』編集の際に収集および調査した地図や写真資料をもとに、羽村の地形や土地利用、景観の変化などについて、羽村市史編さん第3部会長の浜田弘明さんにお話しいただきました。

他の自治体の例と羽村の移り変りの様子の比較など、講師の豊富な知識・経験によるお話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

明星大学生がインターンシップ

3月12日（月）から16日（金）まで、明星大学の学生がインターンシップを行いました。

慣れない仕事と環境の中、専門調査員とともに、とても一生懸命に仕事に取り組んでいました。

市史編さん室では、今年度2回目のインターンシップ受け入れになります。ここでの経験が、将来の社会人としての経験に少しでも役立つことを望んでいます。



表紙の写真 明治・大正時代の羽村の小学校

明治10年に、諏訪神社（現玉川神社）境内に校舎が新築され「西多摩学校」が発足します。明治34年には現在の羽村第一中学校の場所に天王台校舎が完成し、盛大に完成式典が挙行されました。昭和32年までは小学校1校、中学校1校でしたが、羽村東小学校が完成して以降、人口の増加により学校数も増え、昭和55年に武蔵野小学校、昭和57年に羽村第三中学校が開校し、現在では小学校7校、中学校3校となっています。



●羽村の教育 事始め

明治5年(1872)、国民皆学を目指し、学問の普及を理念として義務教育を定めた「学制」が發布されると、羽村と五ノ神村を一つの学区として羽村学舎が、川崎村には宗禅寺に川崎学舎が開設され、徐々に近代教育制度へと転換していきました。

しかし、発足当初は、教員の数も不足し、村民の教育に対する理解不足もあり、なかなか軌道に乗らなかったようですが、指田茂十郎、島田六助、中島与一右衛門、雨倉久次郎、宮沢欽之丞などの影響により、次第に村民の協力も高まってきました。

村民の意識が変化していくにつれ、就学する子どもたちも増え、これまでの教室では狭くなってきました。そこで、諏訪神社(現玉川神社)境内への新校舎建設が決まり、明治11年(1878)に諏訪ノ森に西多摩学校が完成しました。

一方、川崎村では、明治7年(1874)に宗禅寺に開かれた川崎学舎が、その後福生村の福生学舎(のちに東多摩学校)に併合され、川崎村の子どもたちはここで学んでいました。明治16年(1882)に、川崎に新たな校舎を建設し、東多摩学校支校として開校しました。



▲諏訪ノ森校舎前での記念撮影

●佐々先生と岡部先生

明治8年(1875)、島田六助らの尽力により、羽村学舎へ高須塾から佐々蔚が招かれます。佐々は、天保13年(1842)に加賀藩医の三男として生まれました。羽村での教員生活が始まると、村民のため青年補習夜学などを設けて指導するなど、学校内にとどまらず、村全体に活動の場を広げていきました。

明治16年(1883)に一度羽村を離れますが、村民挙げての再招聘の願いにより、明治20年(1887)に再び羽村の地を踏みます。この間、千葉監獄にも勤めていたようです。

佐々は、普段は大変厳しく怖い先生でしたが、大変な酒好きだったようで、酔うと教え子たちを「ね

ずみっ子、ねずみっ子」と呼んでかわいがったようです。

川崎に新校舎が完成すると、初代校長に招かれたのは岡部直清でした。岡部は、弘化3年(1846)に三河半原藩の医師の家に生まれました。寺子屋や私塾などでの指導経験はなく、教員養成学校を卒業し、すぐに校長として学校現場に立ちました。川崎の東多摩支校へは3校目の赴任だったようです。



▲佐々先生肖像



▲岡部先生肖像

●天王台校舎の完成

明治22年(1889)、羽村・五ノ神村・川崎村が合併し、西多摩村が誕生します。その後、西多摩学校の狭隘化、一村内に二校舎があることの不都合などが問題となって、西多摩村議会での議論の末、西多摩学校と東多摩支校を併合して、天王台の地(現羽村第一中学校の場所)に移転・新築することになりました。

明治34年(1901)、天王台校舎が完成し、村内全域から子どもたちが通ってくるようになりました。川崎からも元気に通ってくる子どもたちを見つめて、佐々のとても喜んでいる様子が、下田伊左衛門に宛てた佐々の書簡から読み取れます。

しかし、翌年3月、佐々は静かに息を引き取ります。風邪をこじらせた肺炎が原因とも言われています。村の教育に捧げて24年、61歳の生涯でした。

岡部も、天王台校舎完成の前年、55歳の若さで長逝されました。川崎村の教育に尽力された18年間でした。



▲竣工間もない頃の天王台校舎

部会の手帖



各部会の活動の様子を紹介します。
※1～3月の活動をお知らせします。



第1部会 ～原始・古代・中世～

縄文班では、デジタルトレース作業を進めるほか、出土遺物データ入力作業を再開しました。

中世班では、『羽村市史 資料編 中世』の原稿校正のため、編年史料については、出典元の資料との照合確認作業、出典情報整理を行い、石造供養塔については、資料の画像修正等を行いました。

事務局において、資料編掲載史料の掲載に関して順次許諾手続き作業を進めるほか、協力者等の情報を整理しました。



▲過去の調査の様子

第2部会 ～近世～

昨年より行っている東京都水道歴史館収蔵資料について、陣屋で作成された日誌・玉川上水の普請に関わる簿冊類の調査を行いました。これにあわせて今回の調査で閲覧・撮影した史料については筆耕作業を早急に行い、資料編での活用に向けて作業を進めています。

また、今までに調査している史料群についても資料編刊行に向け、データ化などの作業を行っています。



▲史料筆耕作業の様子

第3部会 ～近代・現代～

『羽村市史 資料編 近現代図録』の校正のための、掲載写真の決定、所蔵者等への掲載許可依頼、説明文等の修正、記載内容の事実確認、全体的な統一などの最終確認作業を行いました。

また、文字資料編に向けての東京都公文書館での資料調査を継続するほか、羽村西小学校に保管されていた明治時代以降の学校関係資料の調査を行いました。



▲東京都公文書館での資料調査の様子

第4部会 ～自然～

地形・地質班では、市内の井戸の水位を計測しました。水位が安定するこの時季をねらって調査を実施しました。

気候班では、2月5日・6日で冬の観測を行いました。6日の早朝には堰下橋付近で、これまでの観測の中で最低気温となる-6度を観測しました。

生態班で行っているセンサーカメラを用いた野生動物の観察では、哺乳類の出現する季節や時間などを分析しています。



▲井戸調査の様子

第5部会 ～民俗～

恒例となった、部会員の合宿による聞き取り調査を2月2日から4日まで実施しました。ご協力ありがとうございました。そのほか、個別に聞き取り調査を行っています。

また、昨年は天候不良により調査が完了しなかった4月の春季祭礼・春祭りについて、補足調査を行うための準備作業を行っています。

さらに、市民の方からお借りした貴重な民俗資料について、記録写真の撮影、計測、リスト化などを進めています。



▲昨年の春季祭礼の様子（阿蘇神社）

市史編さんの足あと

※①～⑤は部会の数字です。(例) ① ⇒ 第1部会

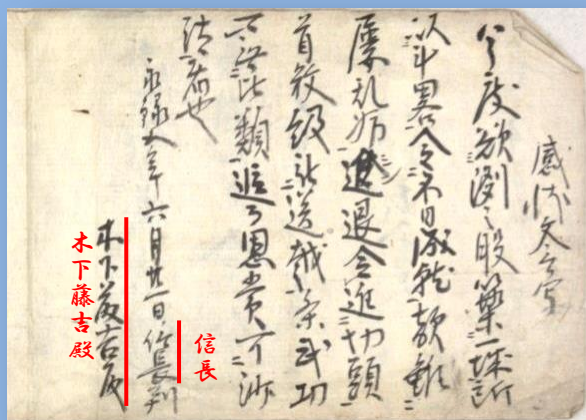
月	日	できごと	月	日	できごと
1月	10日(水)	④ 礫層調査(市内)	2月	27日(火)	③ 市外史料調査(東京都公文書館)
	12日(金)	② 市外史料調査(東京都水道歴史館)		28日(水)	④ 市外史料調査(東京都水道歴史館)
	15日(月)	羽村市史編さんだより第12号発行	3月	2日(金)	④ 礫層調査(市内)
	17日(水)	④ 市内井戸調査		5日(月)	⑤ 聞き取り調査(個人宅)
	18日(木)	② 市外史料調査(東京都水道歴史館)		6日(火)	③ 市外史料調査(東京都公文書館)
	29日(月)	② 市外史料調査(東京都水道歴史館)			⑤ 聞き取り調査(個人宅)
		③ 資料写真撮影		8日(木)	⑤ 聞き取り調査(個人宅)
	④ 市内井戸調査	12日(月)		～	明星大学学生インターンシップ
31日(水)	④ 市内井戸調査	16日(金)			
2月	2日(金)	⑤ 市内合宿調査	13日(火)	③ 市外史料調査(東京都公文書館)	
	4日(日)		15日(木)	② 市外史料調査(東京都水道歴史館)	
	5日(月)	④ 気温の移動観測・風向風速の観測		④ 礫層・礫調査(市内・青梅市)	
	6日(火)	③ 羽村西小学校資料調査	19日(月)	④ 聞き取り調査(個人宅)	
		④ 気温の移動観測・風向風速の観測	20日(火)	第12回羽村市史編さん本部会議	
		④ 礫層調査(市内・青梅市)	24日(土)	第3回羽村市史関連講座	
	13日(火)	第9回羽村市史編さん委員会	27日(火)	④ 気温観測データ(定点)の回収	
21日(水)	④ 市外史料調査(東京都水道歴史館)	30日(金)	⑤ 聞き取り調査(個人宅)		
26日(月)	⑤ 聞き取り調査(個人宅)				

コラム

ちっとんべえ

江戸時代において村役人や村内で重要な地位にいた人物が、日々の職務に関する記録をとる以外に、自身に関心を持つ事柄を記録している場合があります。今回見ていく史料は、羽村に暮らしていた人物が嘉永五年(1852)に書き写したものです。

元になった文書は、嘉永五年からさらに遡った永禄五年(1562)に作成された「感状」です。感状とは、軍功のあった家臣を表彰する際に作成されるもので、ここで注目したいのは、差出人と



第13回 「村人が残したメモ」

受取人です。傍線で示している部分には、感状を出した人物の名前が「信長」、受取人には「木下藤吉(郎)」と記されています。そうです。あの織田信長が部下の木下藤吉郎(後の豊臣秀吉)へ宛てたものだったのです。

教科書でもお馴染みの2人が関係するこの史料。すでに江戸時代でも歴史上の人物として知られていたようです。これを書き写した人物は300年近く経って、どこでこれを見つけたのか、何の目的で書き写したのか、どうして大切に保管されてきたのか、とても興味深いことと思いませんか。(S.Y記)

※「ちっとんべえ」とは、羽村の昔ことばで「ちょっと、少しばかり」という意味です。